

- 森の人インタビュー（前田純二さん）
- 匠の祭典を見学
- 北山杉・里山コンサート
- 森林経営管理法
- 長岡京市環境フェア
- ライフ・アンド・フォレストの案内
- 森林・林業小話 29
- 編集後記

No.42（2018.12.12 発行）

## 森の人インタビュー

### 第17回

今回の森の人インタビューは前田純二さんです。前田さんは大阪府枚方市にお住まいの材木屋さんです。現在、前田さんは北区雲ヶ畑の山仕事組織 commons として、週に2日間は雲ヶ畑で台風21号の被害森林の整備に取り組んでいます。

前田さんが雲ヶ畑に関わりを持ったきっかけは、今は解散しましたが「理想の森プロジェクト」のメンバーとして森づくりに10年ほど前にボランティアとして参加したことに始まります。理想の森の森林ボランティアのなかで前田さんが山の師匠と呼ぶ久保常治さんとも知り合い、チェーンソーの使い方や林業や山の楽しさを覚え、時間があれば雲ヶ畑に通うようになったそうです。3年前からは久保さんに誘われて、commons の正式メンバーに登録して活動するようになりました。

前田さんは、周りから驚かれるほど多様な肩書きを持ち、様々な活動を行っています。先ほどの活動の他、木の名刺入れ Konoka 店長、前田木材株式会社代表取締役、国産無垢フローリングショールーム『和 nagomi』店長、杉玉の制作・販売などです。また、枚方市の前田木材では出身中学の市立東香里中学校の職場体験の受け入れを行い、知人からは「メダカの増やし方、クワガタの飼い方、スッポンの捕まえ方等々、仕事の厳しさを教えてあげてください！間違っても、趣味の材木屋さんの手伝いさせたらダメですよ」と期待の声を掛けられています。

前田さんは、とにかく器用な方であることには違わず、台風で傾いた神社の倒木に登り、安全に伐採作業を行うかと思うと4~5年動かなかった稲刈り機、田植え機を直して納品したり、山中で動かなくなったジープを救出するなど、前田さんに頼んで無理なことはないと思われるほどです。

最近でも雲ヶ畑で11月16日に台風の倒木の整理を杉良の学生の方と行き、続く11月17日は農家民宿の善右衛門で杉玉づくりの講師として、材料の杉葉を集め、参加者に作り方を教えるなど活躍されました。

材木屋さんらしくないなどと友人から言われても前田さんは、「木こりして、材木屋の原点は何かを探す方がよっぽど材木屋さんらしいです」と自身の生き方に誇りを持っています。こんな面白い材木屋さんを人生の師匠として若い方が尊敬し、見習って行くことこそ困難を抱えた中山間地域の農林業の未来や豊かな森林を育む第1歩だと思います。前田さん、これからも雲ヶ畑と集う人々をよろしくお願いします。（白石）



インタビューを受け下さった前田さん



杉玉づくりをしている前田さん



職人さんと記念撮影

## 匠の祭典を見学

7月15～16日に京北の木材加工センターで行われた匠の祭典に参加しました。匠の祭典は林業の技術研修会ですが、その主役となるのは、鉞（まさかり）、鉦（ちょうな）、槍鉋（やりがんな）などの手道具を扱う伝統木造建築の職人さんたちです。

鉞は、刃の幅がとても広い斧のような道具です。丸太の上に立ってリズムよく鉞を振り下ろし、その重みであつという間に角材ができ上がっていきます。一振りするたび華のように舞い上がる木端がとてもきれいです。

鉦は、世界の各地で非常に古くから使われている刃物で、ぐると湾曲した柄の形が特徴的です。鉞は地面に垂直な面を作りますが、鉦は地面に平行な面を研り（はつり）だします。鉦で研った表面は、独特の波状の削り跡がとても美しく、経年とともに黒光りする鱗のようになります。

槍鉋は、こんにち一般的に使われている台鉋（だいがんな）の前身となる道具で、材の表面加工の仕上げに使われました。名前の通り、槍のように長い柄の先に鋭い刃がついていて、体重を刃先にかけて全身で引くように滑らせると、鉋屑が筒状に出てきます。

これらの道具を使うのは、国内外から集まった職人さんたち。今回は鋸研ぎの達人、長津勝一さんもいらっしゃいました。どの方もずっと木と向き合ってきた方ばかりです。

こういった技術は、現在の通常の新築ではまったく必要のないものとなっていますが、多くの職人をひきつけてやみません。これにはやはり、鉄やコンクリートに換えることのできない木の素材としての、深さが関わっているように思います。一本一本ちがった個性を持つ木だからこそ、このような現代まで受け継がれる技術を育むことができたのかなと思いました。（持留）

## 北山杉・里山コンサートに参加しました。

今年度は重なる暴風雨の影響で林の中での開催はおろか、コンサートの開催そのものが危ぶまれましたが、場所を京北銘木生産共同組合ホールにすることで何とか開催することができ、安心しました。

今回は、亡くなられた Café Manouché 元リーダー川瀬さんの追悼と、京北をはじめとした暴風雨の被害を受けた地域の復興を願うという意味で特別な回となりました。ZAZAさんがボーカルとして加わったため、楽器のみの演奏だった昨年までとはまた別の趣があったようです。

個人的には木漏れ日の中で音楽を聴くことを長らく楽しみにしてきたため、屋外で聞けなかったことはやはり少し残念でした。しかし、ZAZA avec Café Manouché の演奏が力強く、語りが軽快だったので時が経つのも忘れて聴き入っていました。シャンソンを聴くのは初めてでしたが、引き込まれました。

道中の荒れた山林に心が痛みました。観客の方にも京北の現状を見ていただけたと思います。あの時、場所で開かれたコンサートだからこそでしょうか、音楽の持つ、人を癒して元気づける力を感しました。

（林）



コンサートの案内板



熱心に演奏を聞く参加者



## 「森林経営管理法」は農山村の課題解決につながるのか？

現在、私たちの暮らす日本社会は急速な変化の中にあり、5年後10年後を見通して生活することすら困難になるような不安な気分が蔓延しています。この波がいよいよ60年後80年後を見通して地域の森を育成している林業にも押し寄せて来ました。

農山村の地域社会が弱体化し、放置された私有林を市町村が集約する「森林バンク」創設を盛り込んだ「森林経営管理法」が来年（2019年）4月から施行されます。この法律では、森林所有者に伐採や植林など適切な経営管理をする責務があると明記し、できない場合は市町村に委託することになっています。市町村は意欲のある林業経営者に伐採や管理を再委託するが、林業経営に適さない森林は市町村が管理し、自然林に戻すこととされています。この法律は私有の人工林のうち荒廃した約450万ヘクタールを対象にしていますが、国有林についても同様な法律・省令が準備されていると聞きます。

農山村が経済的に疲弊し、過疎化と広域合併で行政的にも弱体化するなかで、国が打ち出してきた「森林経営管理法」は林業に山積する課題を解決するよう見えますが、性急すぎる点で危険があります。また、この法律は戦後の森林行政の基本法である森林法（昭和26年6月26日法律第249号）が森林所有者やその団体を担い手としてきた考え方を大きく変更するものです。

中山間地域に噴出している諸問題の解決と国家百年の計と言われる森づくりを丁寧に解きほぐし、心ある森林所有者と国民の優しい思いに寄り添った緻密で粘り強い中山間地域と林業の復興活動を今こそ望みます。NPO法人京都・森と住まい百年の会として農山村の課題解決に向けた取り組みを積み上げていきたいと思えます。（白石）



21号台風で被災した雲ヶ畑の山林



積み木で遊ぶ子どもたち



かんなくずの髪飾り

### 長岡京市環境フェアに参加しました

□11月17日に長岡京環境フェアに参加してきました。百年の会は積み木ブースを担当しました。長岡京市は環境への取り組みが盛んで、今年も多くの企業・地域団体が出展していました。エコ診断ブースで話していると、「去年お風呂を入れずにずっとシャワー浴びてる子がいて」お風呂の中で寝てしまい1週間しか続かなかったこと、今年は3日に1回は入ることを確認しました。

積み木は相変わらず人気でしたが、それをしのご勢いだったのがかんなくず。かんなくずを折ってひもで縛り、お花やリボンの形にしていきます。ヒノキの香りがとても素敵！簡単に作れるということもあり大好評でした。花屋で木の花束が売ってたら買うなあ。

スタンプラリーに熱中して帰ってこない私の代わりに、積み木に遊びに来ていた姉妹が仕事をしてくれました。かんなくずの扱いはお手の物。一緒に会場を回ったり、木のアクセサリを作って遊んだりして、お姉さん気分を味わいました。こういう風を楽しみながら環境問題や自然に親しんでもらいたいな。小学校の調べ学習やエコチェックシートではやられている感がぬぐえせん。（丸山）

## 今年度もライフ・アンド・フォレスト（2019年1月19日）を開催します。

8回目をむかえることになったライフ・アンド・フォレストは、年明けの1月19日（土）にいつもと同じ会場で開催します。

今回は「おいしい林業」というテーマのもとで、地域において実践的に様々な活動を展開している3人の方をお招きし、これまでの経緯、現状、将来の展望などの話題提供を受けます。パネルディスカッションでは、多様な林業の方向性として「食」とのつながりをどう作るかなど議論できればと考えています。

◎日時：2019年1月19日（土）13:00～

◎場所：キャンパスプラザ京都 第3講義室

住所：京都市下京区西洞院通塩小路下ル

◎パネリスト

熱田安武さん（あつたや）

石橋輝一さん（吉野中央木材株式会社）

末延秋恵さん（菊水産業株式会社）

◎コーディネーター

高部圭司さん（京都大学大学院農学研究科）

鹿取悦子さん（観光農園江和ランド）

### ❖連載❖（森林・林業小話 29）

#### 他にもある木質燃料

薪、木炭、ペレット以外にも木質燃料がいくつかあります。例えば、特用林産物の統計に掲載されている範囲内ですと、オガライト、オガ炭、練炭・豆炭などです。このうちオガライトは静岡県でかつて稼働していた生産工場へ見学に行ったことがあります。残念ながら、統計資料をみると2014年度以降に生産量が計上されなくなっており、全国でも1975年には約52万トンだった生産量は2017年にわずか88トン、4工場まで減少しました。焼鳥屋などでよく見かけるオガ炭は、オ

ガライトを主な原料にしている鳥取や愛媛などの西日本で生産されています。1975年の1万6,000トンから2017年の6,600トンへと減ってはいますが、オガライトとは異なる傾向を示しています。練炭や豆炭は石炭を主原料に作られており、前者には通風孔があるのに対して後者は卵型に代表される形状が特徴です。かつては家庭用の燃料としてこたつ、火鉢、あんかなどに広く使われ、今もバーベキュー燃料で販売されています。いつか再評価されると期待しています。＜野瀬＞

### 京都・森と住まい百年の会 会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO 法人京都・森と住まい百年の会をご紹介ください。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。

ブログ<<http://kyotos100.blog102.fe2.com/>>

〒604-0931 京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7

E-mail: [kyoto100nen@gmail.com](mailto:kyoto100nen@gmail.com)

フェイスブックとツイッターもしています



京都・森と住まい百年の会

#### 編集後記

事務局からは他にも伏見城祭り、森林の市、南丹・京丹波林業振興展などに参加しました。

